



 GS 連続シンポジウム 2007

まちづくりへのブレイクスルー 水辺を市民の手に取り戻す

第1回「石を蒔く、海に暮らしつづけるために - 大畑・木野部海岸」
11月10日(土)15:00-18:20 / 東京大学 工学部 2号館 212号講義室

入場料：一般 /1000 円 学生 / 無料

<http://www.groundscape.jp/>

主催 /GS デザイン会議 後援 / 土木学会 景観・デザイン委員会

サポート / (株)アトリエ 74 建築都市計画研究所、(株)アール・アイ・エー、(有) eau、伊藤鉄工(株)、(株) INAX、(株)オオバ、(有)小野寺康都市設計事務所、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術センター、(株)コトブキ、(株) GK 設計、清水建設(株)、(株)住輕日輕エンジニアリング、大成建設(株)、(株)竹中工務店、(株)長大、東京コンサルタンツ(株)、戸田建設(株)、(株)内藤廣建築設計事務所、(株)日建設計シビル、日本工営(株)、日本電気硝子(株)、プロトフォルム、(株)文化財保存計画協会、前田建設工業(株)、三井不動産(株)、ヨシモトボール(株)、(株)ワークヴィジョンズ

まちづくりへの ブレイクスルー

GS 連続シンポジウム 2007



水辺を市民の 手に取り戻す

GS デザイン会議では、まちづくりや空間デザインにおける、分野を超えた専門家間のデザイン体制（コラボレーション）の重要性を指摘し、その実践に取り組んできました。そして現在、全国各地でその成果が着実にたちあらわれつつあります。とくに、都市やまちのなかで重要な位置を占める水辺に注目し、水辺の整備から『まち』への面的な波及効果を持たせる手法は、津和野川（島根県津和野市）や油津・堀川運河（宮崎県日南市）などで大きな成果を挙げており、まちづくりの定石のひとつになると考えられます。一昨年には、その委細を綴った『都市の水辺をデザインする—グラウンドスケープデザイン群団奮闘記』（彰国社）を出版し、その手法の有効性を広く社会に問いかけています。

しかし、空間整備を進めるにあたっては、必ずといってよいほど、さまざまな制度や限られた予算、旧態然としたしがらみなどの制約が存在

しています。これまでに実現した良い事例は、いわばそれらと悪戦苦闘してきた証であり、そこには今後に通じる知恵が数多くあるはずです。こうした知恵の共有化はまちづくりに携わる人間にとって重要な課題であり、GS デザイン会議は、各地で孤軍奮闘している行政担当者や実務設計者、市民への情報を発信するべく連続シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、現実の壁を乗り越えたデザイン事例の過程に焦点を当てます。まちづくりの現場の問題に対する本音の話を引き出し、どのような人がどのような役割を果たし、最終的にどのような空間に結実したのかを手がかりにして、今後のデザイン戦略を議論します。

2007 年度テーマは「まちづくりへのブレイクスルー—水辺を市民の手に取り戻す」です。初回は、下北半島の木野部海岸の試みから、まちづくりと海辺のあり方を問います。

第1回

「石を蒔く、海に暮らし続けるために - 大畠・木野部海岸」



上段：満潮時の木野部海岸
中段：木野部海岸から集落方向
下段左：当初（緩傾斜護岸）
下段右：第一段階（人工リーフ）



登壇者略歴

角本 孝夫
NPO 法人サステイナブルコミュニティ総合研究所 理事長
1952 年生まれ。下北半島の北辺中央部に位置する大畠町の海辺で、岩礁に碎ける潮騒を聴きながら育つ。日本大学法学院卒業後に帰郷。家業は旅館「海遊館」。94 年に NPO 「94 フォーラム in 大畠」、2000 年に NPO 法人「サステイナブルコミュニティ総合研究所」を設立し、大畠の地域づくりに取り組む。木野部海岸のキーパーソン。

清野 晴子
東京大学大学院 総合文化研究科 助教
1964 年生まれ。東京大学農学部水産学科卒、同大学院農学系研究科修了、同大学院総合文化研究科中退。1993 年東京大学教養学部・同大学院総合文化研究科助手。現在に至る。農学修士（水産学）、工学博士（土木）。専門は、生物形態学、映像生物学水生生物学、生態工学、海岸・河川環境保全学、環境政策。木野部海岸のコンセプト提案、デザインアドバイスをおこなう。

篠原 修
政策研究大学院大学 教授
1945 年生まれ。1971 年東京大学工学系大学院修士課程修了。アーバンインダストリー、東京大学農学部林学科助手、建設省土木研究所、東京大学農学部林学科助教授、東京大学工学部土木工学科助教授、同大学教授を経て、2006 年より現職。設計指導に、勝山橋（福井県）、油津堀川運河（宮崎県）、桑名住吉入江（三重県）、津和野川（島根県）、苦田ダム（岡山県）など多数。

花田 一之
青森県 東青地域県民局 地域整備部 河川砂防整備課 課長
1951 年生まれ。弘前大学農学部農業工学科を卒業。同年青森県入庁。今まで関わったプロジェクトに県内の下湯ダム、川内ダム、小泊ダムの建設事業など。
1998 年～2000 年（平成 10 ～12 年）に、当時のむつ土木事務所の河川第一係長として木野部海岸整備を担当。

上島 顯司
国土交通省 国土技術政策総合研究所 空港ターミナル研究室 室長（港湾研究部併任（景観担当））
1961 年生まれ。1989 年東京大学大学院農学系研究科修士課程（林学専攻）修了。同年運輸省入省。港湾技術研究所計画基準研究室、（財）港湾空間高度化センター、港湾局開発課、新潟調査設計事務所等を経て、2001 年より現職。新潟みなとトンネル（土木学会デザイン賞優秀賞）の設計等に関与。

参加申込方法 / WEB サイト <http://www.groundscape.jp/sympo/071110/> の応募フォームからお申込みいただくか、会員（個人・サポート・ユース）／非会員・氏名（ふりがな）・所属（会社名または学校名）・連絡先（メールアドレスまたは電話番号）・シンポジウム参加申込み人数・懇親会参加申込み人数をご記入の上、ファックスにて GS デザイン会議事務局までお送りください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

問い合わせ先 / GS デザイン会議事務局

電話: 03-5805-5578 / FAX: 03-5805-5579

Web: <http://www.groundscape.jp> E-mail: info@groundscape.jp

